

# 「ワーキングプア」を見て衝撃

### 格差社会は仕事の誇りを奪うのか

働いても  
働いても豊かになれない

2年 加藤 哲郎



一番印象的だったのは、母子家庭の母親が、昼と夜、二つの仕事をかけ持ちし、眠る時間を四時間に削り、やつと生活しているというものでした。また、別の若い女性人は、夜の病院食を作る仕事の為に頑張って調理師免許を取得しかし会社が上げてくれた時は給はたったの十円。必死に頑張って取得したにも関わらずたった十円のアップとは、あまりにも残酷な現実でした。

保健の授業で、NHKで放送された「ワーキングプア」と言うビデオを見て、私はその内容にとても衝撃を受けま

今、私たちの国で起こつてゐる「格差社会」の本当の姿を教えてくれました。私は今まで、ニートもフリーターもワーキングプアになる人は本人がしつかりしていなかからだとばかり思っていましたが、そうならざるを得ない世の中のしくみであることをはつきりと理解できました。

日本には流動性がある

格差をよじ登るチャンスに

「日本の論点 2008年版  
より抜粋

意識調査で「将来偉くなりたい」と答えた高校生は、外団が二十%～三十%にたどり、日本はたつた八%。若者は、仕事が自己実現と思い定めるあまり働きすぎて疲れていくという状況もあり、将来に希望をもつていいない。しかし、アメリカと違ひ日本社会には流動性があるので、天と地ほどのギャップを意欲にして格差をよじ登るチャンスにしてほしい。

二〇〇六年の日本の時給最低賃金は、六八七円で、年に計算すると生活保護世帯の支給額（一五〇万）を下回る。フランスは一、二三〇円、イギリスは一九〇円、アメリカは八三五円である。この問題は単に最低賃金を引き上げればいいという単純なものではない。最低賃金を引き上げると、地方の中小企業は、企業体力がなく、グローバル化した競争に勝てず潰れてしまうという悪循環になる。

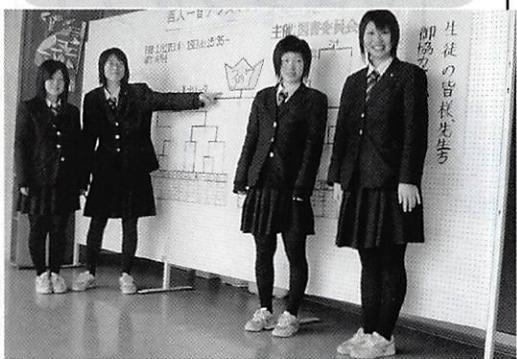
格差拡大が経済成長率のバネという考え方もあるが、四倍も五倍も高収入の人がそれに比例して経済効率を上げているとはいがたい。

日本の働く人の三分の一がパート・派遣社員等の非正社員で、一、七〇〇万人といわれている。非正社員は、賃金が低く、福利厚生・社会保険がなく、働いても貧しい生活をしなければならない。これがワーキングプアやネットカフェ難民（五、四〇〇人）を生む要因である。

このような社会へと足を踏み出さなければならないのです。何故こういう社会になってしまったのか。格差が広がることで、若者のチャレンジ意欲を低くしているのか。努力すればむくわれるのか。図書館にある本から読みとり、じっくり考えてみたいと思います。



## 百人一首クラスマッチ



## 伝統文化で腕を磨く

2-4 尾形百合恵

私が百人一首を始めたきっかけは、妹の付き添いで行った児童会館のカルタ教室でした。誘われてやつてみたら意外とおもしろくてはまってしまいました。

現在私は、米沢カルタ会に入つて米商のカルタ部と一緒に練習しています。そして、仙台などで行われる大会に選手として参加しています。

カルタをやっていて楽しいと思う時は、やはり札が取れた瞬間です。最初の頃は相手の札を取ることがこわくて取れなかつたけれど、先生から、「相手に遠慮しながらするような甘っちょろい世界じゃないんだ」と言われて勝負の厳しさを知りました。

一月に行われた百人一首クラスマッチ大

会で我クラスは優勝できず、三位でした。

毎日練習して四人全員が力を付けた団体の

力は改めてすごいなと思いました。

百人一首は三十一文字の和歌をカルタにして楽しむという日本独特の伝統文化です。これからも腕を磨き、自分の誇りにしていると思います。

会場からは笑いがこぼれました。そして最悪の事態に。途中

(三年 安達 里美 記)

## 詠みの練習を一緒にしよう

## 三校合同百人一首カルタ会

十二月十五日に、米沢工

業高校を会場に三校合同百

人一首を楽しむ会が行われ

ました。四十人程の参加で、

九里は約二十名の参加でし

た。そのうち何人かはクラ

スマッチに出る人も参加し

てくれました。

カルペットが敷かれた大

きな部屋で、三校混合四人

一チームの源平戦で行われ

ました。

各校一人ずつ詠み手が出

ましたが、工業の詠み手が

鼻をすりながらゆつくり

詠み、時々の間違い詠みに、

詠みのゆつくりさがかえつ

て札が取れたという人もいま

した。

今年のカルタ会は、工業の

詠み手さんのお陰で、楽しく

できました。「来年は一緒に

詠みの練習をしよう」と声を

かけたいです。他校と交流を

することで、とてもいい時間

を過ごせたと思います。

(三年 安達 里美 記)

## クラスマッチ

結果	1/17・18
優勝	3 - 7
準優勝	1 - 6
3位	2 - 4
4位	2 - 1



大会当日。一回戦は無事に勝てましたが、二回戦で当った三年五組が手強くて少しあせりましたが、そこは神経をすり減らしながらも勝ち残ることができました。試合中は仲間の存在が大きく、安心かつ頼りがあり、楽しく、仲間のすばらしさを感じました。それに担任の先生に恵まれての優勝だったと思います。最後に、数人に「練習していない」とか言いつつ、実は水面下でしてました。ごめん！ それも作戦でした。

十一月から  
密に練習してました

三一七 荒井 千春

今思うと「してやつたなあ」って感じです。

私は去年の十一月あたりから百人一首で優勝してやろうと人知れず練習を始め、少しづつ力をつけてきました。クラスの人も相手をしてくれたり、読み手をしてくれたりととても有り難かったです。なによりも感謝しているのは担任のユキエ先生です。先生が買つた百人一首を私達に貸してくださいり、お陰様で十一月から毎日、そして冬休みも練習が出来ました。

大会当日。一回戦は無事に勝てましたが、二回戦で当った三年五組が手強くて少しあせりましたが、そこは神経をすり減らしながらも勝ち残ることができました。試合中は仲間の存在が大きく、安心かつ頼りがあり、楽しく、仲間のすばらしさを感じました。それに担任の先生に恵まれての優勝だったと思います。最後に、数人に「練習していない」とか言いつつ、実は水面下でしてました。ごめん！ それも作戦でした。

彼がマイクの所で鼻をかむと、いうハプニングとなりました。ひたむきな姿にみんな好感をいただきながらも、涙が出る程笑ってしまいました。

チームによつては三枚差と

いうところもあれば、十枚差

というチームもありました。

詠みのゆつくりさがかえつ

て札が取れたという人もいま

した。

今年のカルタ会は、工業の

詠み手さんのお陰で、楽しく

できました。「来年は一緒に

詠みの練習をしよう」と声を

かけたいです。他校と交流を

することで、とてもいい時間

を過ごせたと思います。

(三年 安達 里美 記)

A cartoon illustration of a graduate wearing a cap and gown, holding a sandwich. The graduate has a neutral expression and is pointing upwards with one hand. The background features large stylized Japanese characters: '本喰い虫の井明' (Honshiki-ame no iori) written vertically along the right side.

そんな私が小説を読むようになつたのは、ある本との出会いでした。

私が本を読むといえば漫画がほとんどで、文字ばかりの小説は嫌いでした。そんな私が小説を読むようになつたのは、ある本との出会いでした。

この本は主人公である和泉勝利が、年上の彼女を好きになり付き合っていくありふれた恋愛ストーリーですが、そのありふれた日常の中で起こる嫉妬や怒り、悔やみや喜び、喜怒哀楽の感情が、文章を通して自分の中に流れこみ、自分がその場面にいる感覚に襲われるのです。

本を読んでいてこんな感覺になつたのが初めてで、とても新鮮だつたのです。これからもそういう感覚を味わいたいので、小説を読み続けていきたいと思います。

## 地区 図書委員研修会

於米商 11月16日

# 私の好きな

鈴木保奈美  
3 - 7

3 - 7

主

人

六

図書館貸出

ベスト10

(4月から1月8日まで)

1位	3 - 3	渡邊 満雄	90冊
2位	3 - 5	八巻 祐子	55冊
3位	1 - 7	中嶋 澄乃	52冊
4位	3 - 7	鈴木保奈美	51冊
4位	1 - 5	小川 美穂	51冊
6位	2 - 8	相田 拓樹	48冊
7位	3 - 6	安達 里美	45冊
8位	3 - 1	伊藤 大二	40冊
9位	1 - 7	高橋 謙	38冊
10位	3 - 7	荒井 千春	35冊

# 太宰 治 著 『フォスフォレッセンス』の 私

私の好きな主人公は、  
フォスフォレッセンス  
の中の「私」だ。「私」  
には光のように脆く消  
えてしまいそうな優しさ  
がある。そんな優しさが、  
平凡な主人公を引き立  
たせていて、その何とも  
言えない雰囲気が好きだ。  
この主人公は、夢と現実に境界線がないと  
考える夢想家といった  
類の人物だ。夢の中で、「私」には妻も友人も  
居て、日々を過ごし、成長している。そして、

現実では、夢の住人とは別人の妻も友人も居る。主人公にとって夢と現実は等しく、同じように成長している。夢は主人公が存在するもう一つの世界なのだ。

この物語の最後は、「私が夢でしか見ていない美しい花を、現実の世界でも見てその名フオスフォレッセンスを口にしているところで終わっている。その花は、現実では別離の花として描写されていて、主人公の夢と現実の境界線を濃くしているようだった。

物語 자체가、空虚感を漂わせており、「私」の弱さや儂さをより印象強くしている。私が読んだ本の中でも、この「私」が一番儂く、幸の薄い主人公だ。

研修会の内容は、直江兼続の生涯の講演と各校の文化祭での取り組みの情報交換でした。全部の高校が前に出て報告する形で、そこでは、ほとんどの学校の図書委員会が、文化祭に参加していることに驚きました。なかでも、クイズラリーとか、絵本の原画展をしたという発表が印象に残りました。

また、兼続の講演は九里の文化祭でやったことなので、再確認になりました。二年の加藤先輩が、「仙桃院、仙洞院は同じ人なのになぜ統一されていないのか。」という詳しい質問をして、講師の先生に驚かれました。

(一年 野部千夏 記)

2008. 2 . 22

# 読書の楽しみ



荒川 充子 先生

りと読書をする理由は、そこにある。

九里祭では、調べることで沢山の発見

編集後記

今回初めての編集をしました。第一面の特集は「ワーキンググループ」で、みんなに驚かされました。スケールの大きなテーマとなりました。是非図書館へ足を運び、こういうテーマの本も読んでみて下さい。（2年 加藤）

人を待っている間の、ふと  
した時間。電車やバスの中。  
お気に入りのカフェで飲み物  
を飲みながら。夜寝る前のベ  
ッドの上。私が本を読むシチ  
ュエーションは、だいたいこ  
んな感じ。読むぞうって気合  
いを入れて読むことはあんま  
りないけれど、私の周りには  
常に何かしらの本が転がって  
いて、こんな感じでのらりく  
らりと読書をする。本のジャ  
ケ買いも大好きで、失敗もあ  
るけれど止められない。図書  
館も好き。学生時代は、窓一  
面が森に囲まれていた大学の  
図書館が大好きだった。

職業柄、漱石や芥川、古典  
コラムやエッセイなどの軽め  
の文章も好んで読む。ちなみ

くるるときがある。  
いろんな時代の、い  
ろんな境遇で生き  
てきた、いろんな人の言葉は  
本当に私の感性をビシビシと  
刺激してくる。それは千年も  
前の人々の言葉であったり、今  
を生きる人の言葉であったり、  
心が弱つてしまつたとき、判  
断に迷つたとき…そういうと

きにも、私は彼らの言葉から答えを見出そうとしたり、慰められたり、叱咤激励されたりすることがある。

# 活動をふりかえつて

A cartoon illustration of a sheep's head and upper body. The sheep wears round-rimmed glasses and a dark cap. It has a simple, slightly worried expression. It is dressed in a dark, double-breasted jacket with three white buttons. In its right front paw, it holds a small, open book.

## 名著の伝記 <その10>

椎名 誠 著  
**「岳物語」**

人のカヌーイングの野田さんと出会った岳は釣りもカヌーも、父より上達していく。父は自分を越えゆく岳を見守るしかなかつた。

子は父の背を見て育つという。だが、父もまた、自分を追い越していく我が子の背中を見て育つものなのだ。

## 活動をふりかえつて

そして、これは図書委員会に入らなければわからなかつたことだと思います。

# 岳物語

父シーナは小説家という

がありました。その中でも、